

優勝できて嬉しかった

高田 智久くん（東蓼沼東）



3月に東京都で開催された水泳第28回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会(50m自由形10歳以下の部)で優勝した高田智久くんにお話を伺いました。

水泳を始めたきっかけは、「兄が水泳をやっていた影響です。」と話す高田くん。最初は、顔に水をつけることができなくて、よく泣いたり、頭を洗うときにもお湯をかけられるのがいやなくらい、水には恐怖心があったそうです。
3月に出場した全国大会では、初優勝することができ、高田くんは「2着以下に1秒近くの大差をつけて優勝できて嬉しかった。」と笑顔で答えてくれました。また、大会では緊張しますか、と尋ねると「あま

今日の輝ける星

り緊張はしません。3月の大会でも緊張はしませんでした。」と頼もしい答えが返ってきました。

現在、本郷小学校の5年生で、学校が終わった後に、真岡市のスイミングスクールに通っています。

練習は、平日は1時間30分、土曜日が2時間の練習をこなしています。

1回の練習で三千メートル以上泳ぐため、必ず練習前には夕食をとり、1回の食事もかなり多いそうです。

一時は腰痛に苦しんでいましたが、その痛みに耐えながら練習に励み、腰痛が治るとタイムを縮めることができ、今回の大会結果につながりました。「スタートとターンが苦手です。」と課題もわかっているのに、練習で克服することにより、さらなる活躍が期待されます。

今後の目標については、「大

きくなったら、プロ野球選手か水泳選手で頑張りたいですね。」と将来の夢を元気に語ってくれました。



みの下で大きく育ったスイートコーンは、鮮度が命。高温になるほど糖分が減り、でんぷんが増えて味が落ちていきます。おいしさが保たれるように早朝に収穫して、午前中には集荷場に運ばなければいけないとことで、時間に追われる忙しい日々が続きます。

食べ方については、焼く、茹でる、蒸す、レンジで加熱など色々ありますが、梁島さんのお勧めは、薄皮を残したまま茹でる、レンジで加熱するだそうです。

今後の目標は、「10aあたりの収穫量を300箱(1箱14本入)にすること。また、部会の人数がもっと増えればいいですね。」と意気込みを語ってくれました。

畜産農家でもあり、水稻の他、かんぴょうやほうれん草も栽培する梁島さん。一年を通して計画的な農業経営を図っています。スイートコーンの出荷が終わると、次はかんぴょうの収穫が待っています。

わが町の農産物



スイートコーン編

今月の農産物は、数少ない「旬」を演出できる野菜、スイートコーンを紹介します。

JAUつのみやスイートコーン専門部会の梁島正一さんにお話を伺いました。

現在、町では40人の皆さんが部会に所属しています。

梁島さんのお宅では、味来、あまえん坊、ゴールドダッシュという品種を75aの畑に作付けています。

今年も、天候不順の影響で、実の入りは例年よりも少し遅くなりましたが、ハウス栽培の物は6月上旬から出荷を始めました。

スイートコーンは、「収穫の時期を的確に見極めることが大切で、難しい。」と話す梁島さん。収穫に適した時期は4日から5日と短く、絹糸のような「ひげ」が茶色くなり、皮が白身を帯びてきたり、穂先を触ってみた感触(堅さ)で判断するそうです。

自然の恵

